

<報道発表資料>

令和8年9月3日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開

シリーズ寛永行幸 400 年

令和8年度秋期「玉座を飾った障壁画 ～〈大広間〉一の間・二の間～」

この度、秋期原画公開「玉座を飾った障壁画 ～〈大広間〉一の間・二の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、寛永行幸4日目の能上演で、後水尾天皇（1596-1680）の観覧席となった〈大広間〉二の間などの障壁画を展示します。



〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図》東面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川三代将軍家光の時代、寛永^{かんえい}3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派^{かのう}の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ寛永行幸 400 年」と題して、今からちょうど 400 年前に行われた寛永行幸で使用された二の丸御殿の部屋の障壁画に焦点を当て、御紹介します。

【事業概要】

- 会 期 令和 8 年 9 月 1 0 日（木）～1 1 月 8 日（日）
- 入館時間 午前 9 時～午後 4 時 3 0 分（閉館は午後 4 時 4 5 分）
※二条城の入城受付は、午後 4 時まで
- 場 所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館
（〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町 5 4 1 番地）
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、
50 号系統「二条城前」下車すぐ
- 入 館 料 1 0 0 円（未就学児無料）
※別途入城料が必要。
※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の 7 0 歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方、二条城の入城料、二之丸御殿観覧料及び本丸御殿観覧料がいずれも免除される方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈大広間〉一の間障壁画《松竹錦鶏図（しょうちくきんけいず）》《花卉図》（かきず）、〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図（まつくじゃくず）》
（障壁画面数：26 面）
- 主 催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈大広間〉一の間障壁画《松図》北面

<解説と見所について>

二の丸御殿の中心に位置する〈大広間〉は、将軍との対面が行われる最も公的な棟です。将軍は上段である一の間に座し、将軍との対面に訪れた人々は二の間に控えました。しかし、寛永行幸では、〈大広間〉は、本来の用途とは全く異なる役割を担いました。行幸に備えた二条城大改修の際に、二の丸御殿の南、〈大広間〉二の間の正面には、能舞台が設けられました。そのため、行幸四日目の能上演の際には、二の間に天皇の座、すなわち玉座が設けられたのです。

天皇の背景になった一の間の大床には、巨大な松が描かれていますが、その前には、名画や調度が飾られ、また、玉座の傍らには黄金の茶道具が置かれていました。

一の間と二の間の障壁画は、狩野探幽（1602～74）が担当しました。行幸の際に、部屋と廊下の境の戸襖は、採光などのために取り外されていたと考えられますが、探幽は、二の間の残された壁面だけでも、《松孔雀図》が成立するように構成を工夫しています。長押の上の壁面に描かれた飛翔する優美な孔雀は、中国の鶴の絵画を源流とする図像ですが、これを反転した図像は、二の間と三の間の境の襖の上にある「桐に鳳凰」の彫刻欄間の飛翔する鳳凰にも見られます。古来、吉祥を招く鳥として尊ばれた孔雀と、優れた支配者のシンボルとなっていた鳳凰が舞う空間に、玉座が設けられたのです。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096